東洋大学 学生ＦＤチーム

2016・3 No.9

学生FDチームニュースレター

学生FDサミット2015夏 in 追手門学院大学

2015年9月2日(火)～9月3日(水)に、追手門学院大学で開催された「学生FDサミット2015夏」に東洋大学学生FDチームからは職員1名を含む7名が参加しました。本サミットのテーマは「自大学を“よく”するために『団体』として何ができるかを考える」でした。

1日目のオープニングでは、自分たちの団体で行われている活動の位置づけを見直す企画が行われました。続いて行われた他大学による事例紹介では、「岡山大学」「京都産業大学」「芝浦工業大学」「追手門学院大学」「山口大学」の5校が、それぞれの活動紹介を行いました。他大学では、学生FDのスタッフが各学部の推薦により選出されているケースや、トレーニングを受けた学生が対価の伴う活動をしているケースなど、様々な組織形態があり参考になりました。その後に行われたパネルディスカッションで特に印象的だったのは、大阪大学の佐藤浩章先生の「学生FD活動の本質的な問い」です。それは「大学教員の能力開発にかかわる組織的な取り組みに、学生がどう関与するべきか」というものでした。ここでは学生FDとしてアプローチできる手段は2つあるとされ、自分たちの活動がどちらをとるか自覚する必要があると述べられていました。1つ目は「プロフェッショナルリーダーシップ」、すなわち専門性が求められる「質によるアプローチ」です。2つ目は「レーマンコントロール」、すなわち素人集団の「数によるアプローチ」です。私たち東洋大学学生FDチームは、サークル等の学生団体ではなく、FD推進センター直属の組織として位置づけられていることから、専門性が求められることがあります。そのため、定期的に勉強会を開催したり、他大学の学生FD企画 に参加させていただいたりするなど、学生FDチームスタッフの専門性も磨いています。そのような活動を続けながら、一方で、一般の学生の声も大切にして、活動をしていきたいと思います。

2日目は他大学との混合しゃべり場の後に、自大学で集まって自分たちの活動を振り返り、今後の活動をより良くするための話し合いをしました。活動を振り返ってみて出た意見の一つが、『東洋授業への声コンクール』は、もっと学生に分かりやすいテーマで作品の募集を行い、効果的な広報をして、実施後には企画を通して得た成果などを学生にフィードバックしていく必要がある、というものです。その他にも、教員・職員・学生が三位一体となってさらなる学生FD活動の発展のために活動していかなくてはならないなど、活動目的の見直しや再確認を行うことができました。

最後に、話し合ったことを他大学の方にも発表して共有しました。自大学の活動と他大学の活動の違いを見ることができて、とても良い機会になりました。今後は白山キャンパスに限定せず全学的な活動ができるように、幅広い活動を心掛けたいです。 （文学部・大森優也）

↑参加した7名（職員1名・学生6名）

CONTENTS

1 学生FDサミット2015夏
2 東洋大学学長 竹村 牧男先生 より挨拶
FD推進センター長 神田 雄一 先生より挨拶
FD推進センター学生FDチーム代表 齊藤 克弥より挨拶
学生FDチームの紹介
3 2015年度学生FDチーム活動紹介
新任教員FD研修会参加
4 先輩による履修相談会
白山祭「教育の木育生プロジェクト」
5 第3回 東洋授業への声コンクール
6 【特集】 先輩たちによるおもしろ授業紹介冊子WiLL
7
8 とよと――――く in 川越
オープンキャンパス企画「大学と高校 学びの違い」
学生FDチームスタッフ募集

とよと――――く in 川越

2015年7月21日(火)12:10～14:30 にかけて川越キャンパス第二会議室で、学生FD出張企画第一弾「とよと――――くin川越キャンパス」を開催しました。テーマに基づき、学生と教員、職員が意見を語り合いました。テーマは「やる気スイッチを押してくれた授業って、どんな授業」「川越キャンパスの学習、自習環境ってどう思う」「みんなで作ろう理想の授業」の3つでした。

当日はAとBの二つのグループに分かれて、活発な議論が繰り広げられました。Aグループでは「実験形式の授業は座学形式の授業よりもやる気になる」、「研究室のスペースを広くしてほしい」、「インプットした知識を課題でアウトプットして、なおかつフィードバックしてもらえる授業が理想」などの声が挙がりました。Bグループでは「やる気スイッチは押し続けることが大切」、「学習環境は無理に作らず、学生が自然に作るべきである」、「授業の形態は少人数のグループでやりたい」という声が挙がりました。今後も白山キャンパス以外でも学生FD活動が広がるように、他キャンパス出張企画を続けていきたいです。

（文学部・大森優也）

↓しゃべり場の様子

オープンキャンパス企画 「大学と高校　学びの違い」

2015年7月18日（土）・19日（日）のオープンキャンパスにて、受験生を対象にしたトークライブ「大学と高校　学びの違い」を開催しました。この企画は受験生の皆さんに「大学の授業・教育」について伝え、「大学生になること」の意識を持ってもらうことを目的に企画されました。両日合わせて150名の受験生・保護者の方達にお越しいただきました。

本企画では、大学と高校の「学び」の違いを知ってもらうために学生FDチームのスタッフが、自身の高校時代に思い浮かべていた大学生像と入学後のギャップを話したり、大学生活を過ごして感じた高校との違いや大学生活におけるアドバイスを伝えたりしました。また、この企画では、一方的に話をするのではなく、来場した受験生の方に質問を投げかけてみたり、イメージを掴みやすくするためにスクリーンを使って説明をしたりと、少しでも理解を深めてもらえるように努めました。

またトークライブ後には、質問時間を設け、受験生の方達の質問に学生FDチームが答えました。

お越し頂いた受験生の方達には、この企画を通じて、大学と高校の「学び」の違いを少しでも理解して頂けたのではないかと思います。

（社会学部・清水滉太）

↓概要を説明している様子

FD推進センター 学生FDチームスタッフ募集中！

私たちと一緒に
活動しませんか？

学生FDチームでは、東洋大学での授業、学びを教職員の方々と協力しながら、学生の力を活かしてより良いものにしてゆく活動に取り組んでいます。活動内容及び応募についての詳細は、**FD推進センター学生FDチームのホームページ**に掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

私たちと一緒に、楽しく活動し、大学での学びを変えてみませんか？皆さんのご応募をお待ちしております。

※対象：学部1～3年生・大学院生

応募に関するお問い合わせはこちら☞

学生ＦＤチームニュースレター　２０１６・３　No.9
平成28(2016)年3月22日　編集・発行：東洋大学 FD推進センター学生FDチーム
E-mail：**mlstudentfd@toyo.jp**　学生FDチームホームページ：**http://www.toyo.ac.jp/fd//student_j.html**

東洋大学学長　竹村 牧男先生　より　メッセージ

学生FDチームの皆さん、日頃の活動に、深く敬意と謝意を表します。現代の高等教育界においてもっとも重要と考えられていることは、教員主体の教育から学生主体の学修へ、受け身の学修からアクティブ・ラーニングへ、座学のみからサービス・ラーニング、インターンシップ等の導入へ、等々の教育の「質の転換」です。ぜひ皆さんには、自学・自修の姿勢を自ら確立していくとともに、本学の教育体制がこうした「質の転換」を実現し、さらにその内容を向上させていけるよう、多くの提言を期待しています。

FD推進センター長　神田 雄一先生　より　メッセージ

「学びの充実に向けて～期待～」

学生FDチームによるニュースレターも9号を数えるまでになり、号を重ねるごとに内容の充実が見られます。これからの大学におけるFD活動は、学生と教職員が力を合わせて、より一層充実した授業の展開や教育環境の改善を進めなければなりません。その一翼を担ってくださる「学生FDチーム」には大きな期待を持っております。

この活動は全学的な活動にしなければ意味がありません。白山以外の各キャンパスにおける企画も実施していますので、多くの学生諸君に参加していただき、大学での学びを充実したものにしていただきたいと思います。益々活発に奮闘してくださることを期待しています。

学生FDチーム代表　齊藤 克弥　より　あいさつ

東洋大学FD推進センター学生FDチームの代表を務めています、社会学部社会学科の齊藤克弥です。

学生FDチームは2015年度からFD推進センターの規程に明記され、今後は、教員・職員・学生が三位一体となった活動がより一層強固なものになると考えます。

現在の学生FD活動はチームスタッフの所属キャンパスが白山のみであることから、白山キャンパスに限定されている現状があります。しかし、今年度は初めて川越キャンパスで、教員・職員の方々のご協力のもと「とよとーーーく（しゃべり場）」の企画を実施することができました。今後はキャンパスの垣根を超えて、全学的に活動を展開し、東洋大学がより多くの学生にとって「誇りを持てる大学」となるよう、活動してまいります。

学生FDチームの紹介

私たちは「学生FDチーム」として、東洋大学FD推進センター直属の組織として活動しています。2015年度で活動を始めて6年目となり、今年度よりFD推進センターの規程に明記されました。本学の学生FD活動は「東洋大生がより主体的に学び行動し、東洋大生であることに誇りをもてる大学をめざして」という理念のもと、「学生の大学生活の中心である授業を、教員・職員・学生の三位一体で改善、向上させようとする取り組み」として教員・職員の方と共に活動をしています。

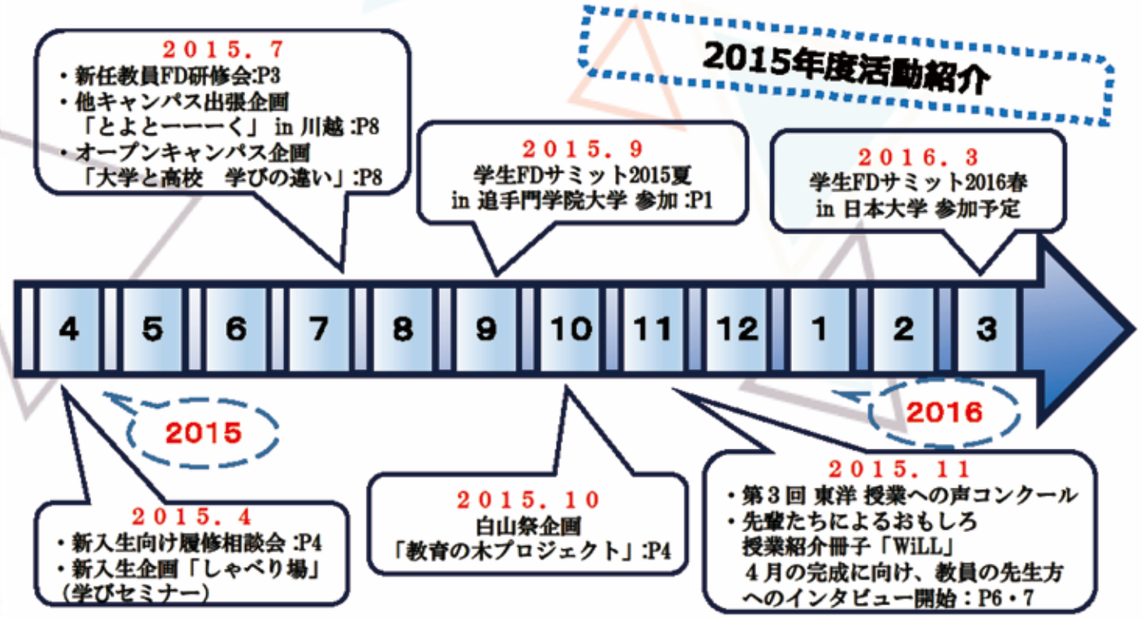
2015年度の活動では、新入生を対象とした「履修相談会」の開催、「先輩たちによるおもしろ授業紹介冊子WiLL」（平成28年4月発行予定）の作成、他大学の学生FD団体との交流など、様々な取組みを実施することができました。

このように学生FDチームスタッフは、学生や教職員と共に力を合わながら、日々活動に取り組んでいます。

（法学部・清水彩可）

↑ある日の会議風景

2015年度　学生FDチーム活動紹介



（法学部・林大翔）

新任教員FD研修会参加

2015年7月11日（土）に「平成27年度　新任教員FD研修会」が開催され、昨年度に引き続き、学生FDチームの活動紹介を行いました。今回は「学生FDチームとはなにか」と題し、学生FDチームの説明、現在までの活動内容、今抱えている問題、今後の展望について説明しました。

はじめに、学生チームの歴史やチームの理念を説明し、学生チームの紹介を行いました。活動紹介では、白山以外のキャンパスでの初めての実施となる川越キャンパスでの「とよとーーーく（しゃべり場）」、今年度で3回目となる「東洋授業への声コンクール」、来年度の発行に向けて年間を通して取り組んでいる「先輩たちによるおもしろ授業紹介冊子WiLL」、他大学と連携した取り組み事例、広報活動の展開を紹介しました。以上の取り組みは本ニュースレターやFD推進センター学生FDチームHPにて詳細をご覧いただけます。

現在、学生FDチームが抱える課題としては、活動が白山キャンパスに限定されていること、またアドバイザーとなる特定の教員の先生方がいらっしゃらないことです。このことに加えてスタッフの人数不足が大きな課題となっております。

このように課題は多くありますが、本学の学生FD活動の理念のもと、より主体的に行動し、今まで以上に教員・職員の方々と協力を進めながら、課題を一つ一つ乗り越え、今後も引き続き東洋大学の授業の更なる向上の一助となる活動を展開していきたいと思います。

（社会学部・齊藤克弥）

↑新任の先生方に発表する様子

先輩による履修相談会

2015年4月2日（木）・3日（金）に白山キャンパス・ナレッジスクエアの学修支援室にて、新入生を対象とした「先輩による履修相談会」を、昨年度に引き続き実施しました。

履修相談会では、新入生の皆さんが履修をするにあたって不安に感じる点を中心に、白山キャンパス6学部の学生が揃った学生FDチームのスタッフ一人ひとりが履修のポイントをアドバイスしたり、新入生の質問に答えたりしました。

開催日が学部ごとのオリエンテーションや学習相談会と重なったため、新入生が集まるか不安でしたが、2日間合わせて約60名の新入生に参加して頂き、真剣に履修のアドバイスを聞く姿を見ることが出来ました。

相談会に参加して頂いた新入生の皆さんからは、「履修の不安が消えた」「大学での授業が楽しみになった」といった声を聴くことが出来ました。履修に不安を感じる新入生に参加して頂き、少しでもその不安を解消するためのサポートが出来たという事は、我々学生FDチームにとっても、非常に有意義な取組みとなりました。

（社会学部・清水滉太）

↑相談会に来た学生に親身になって対応しました

白山祭 「教育の木育生プロジェクト」

2015年10月31日（土）と11月1日（日）に、白山キャンパスで開催された白山祭に出展しました。6号館2階の大教室6210教室にて、学生FDチームのニュースレターやFD推進センターのFDニュースに加えて、これまでの活動写真を壁面に貼り、活動紹介をしました。教室の後ろには模造紙を重ねて、以下の3つのテーマについて参加者それぞれの想いを書いていただく『教育の木育生プロジェクト』という企画を行いました。テーマは「大学に行く理由」、「大学教育は何のためにあるか」、「将来の夢」の3つです。来場者の方々には好きなテーマを選び、用意したポストイットにコメントを書いていただきました。他大学の方や東洋大学のOB・OGの方、東洋大学の学生、高校生やその保護者の方など、多くの方が来場してくださいました。

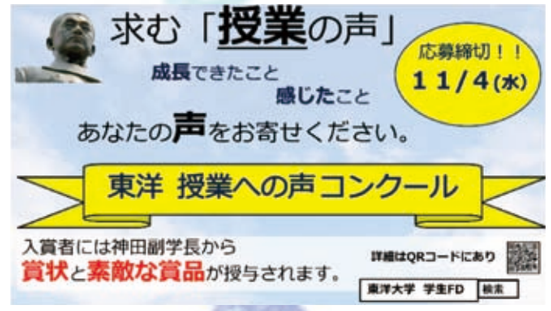
←しゃべり場の概要を説明中

本企画を通して、私たちの活動を少しでも多くの方に知っていただきたいという思いで取り組みましたが、来場いただいた方からは、「大学でこのような活動をしている団体があるなんて知らなかった」という声が寄せられました。

今後も継続的に活動を続けて、多くの方と共に、より良い大学教育について考えていきたいです。

（文学部・大森優也）

第3回　東洋授業への声コンクール



2014年度に引き続き、「第3回 東洋授業への声コンクール」を開催しました。学生の授業に対する「声」を集め、その「声」を授業の向上に活かすという考えから生まれたこの企画も今年度で3回目を迎え、年々応募作品の質も上がっているように感じます。

2015年度は「大学の授業を受けて感じたこと」というテーマを設定しました。多くの学生から作品を応募いただき、学生の授業に対する想いを知ることができました。これらの学生からの「声」を集めて学内に発信することは、本取組みの目的の一つである「授業の向上」という側面に大いに役立つと考えています。

コンクールの広報に関しては、学内各所でのポスター掲示、校内放送、ホームページでの宣伝など、2014年度よりも充実した広報活動を行いました。 学内のさまざまな場所で「第3回 東洋授業への声コンクール」という文字を見るたび、学生FDチームの取り組みが広く知られることを誇らしく思いました。また、ポスターを見た友人から「学生FDチームって何？」「普段どのような活動をしているの？」と聞かれる場面も多々ありました。コンクールの広報が企画の宣伝だけでなく、学生FDチームの活動の周知にもつながったと感じています。

応募作品の選考では、今年度もFD推進センター長である神田先生をはじめ、FD推進委員会部会の先生方、FD推進支援室の職員の皆様にご協力をいただきました。授業を受ける学生、授業を行う教員、授業を支える職員、3つの目線から入賞作品を選ぶことで、よりテーマに沿った入賞作品を選ぶことができました。応募作品はどれも「授業への声」が伝わるものであり入賞作品を決めることは容易ではありませんでした。応募いただいた作品には、学生の皆さんの授業に対する思いがつまっており、学生の「授業への声」を知る貴重な機会となりました。この場を借りて応募いただいた皆様に、お礼申し上げます。なお、入賞作品に関しましては、FD推進センターHP・ニュースレター8号に掲載してありますので、どうぞご覧ください。

↑入賞者と共に記念撮影

↑合同作品審査会

大学の授業には様々な形態があります。授業の規模は300名近い大規模教室から30名程度の小規模教室まであり、形式も座学やディスカッションなど様々です。また、授業を受けて感じることも様々です。おもしろい、難しい、知識を深めたい…多くの「大学の授業を受けて感じたこと」を、この企画を通してぜひ振り返ってみていただけたら嬉しく思います。

（法学部・林大翔）

【特集】先輩たちによるおもしろ授業紹介冊子WiLL

『ＷｉＬＬ』ってなに？

「先輩たちによるおもしろ授業紹介冊子WiLL」(以下WiLL)を作成する一番の目的は、「学生がより授業に関心を持てるよう手助けをし、学生の学びへの主体性を向上させる」ことです。 WiLLには、**W→Widen（広くする）、i→image(想像)、L→Lead（導く）、L→Learn（学ぶ）**という意味があり、これは受講する学生が自らの意志(WiLL)で授業を選択し、広く想像を導いて学んでいくという意味を込めています。

授業をご担当される先生方へ学生がインタビューを行い、先生や職員の方々の協力を得ながら編集を進めることで、幅広い角度から学びをとらえ、授業を紹介することができると考えています。また、『WiLL』を読んだ学生が授業により深い関心をもってひとつひとつの授業を履修し、「東洋大学生がより主体的に学び行動」することにつなげてほしいという願いをこめて作成を進めています。

『WiLL』の完成まで

作成までの流れ	特色
○2015年春学期 他大学の学生団体が作成した授業紹介冊子の作成例を調査。 ○教職学合同ミーティングにて、授業紹介冊子の企画書を提出。企画書の推敲を重ねた。 ○2015年9月 全学FD推進委員会にて企画実施の承認を受ける。 ○2015年9月21日から10月10日、白山キャンパスの学生を対象に、ToyoNet-ACEを利用してアンケートを実施。質問内容は、「その授業や学問に対してさらに興味や関心が高まった授業で、他の人におススメをしたい授業」とした。アンケートで寄せられた声を参考に、授業（本年度は「共通総合科目／基盤教育」に限定）を担当されている専任教員の先生方の研究室へ訪問し、インタビューを行った。 ○2016年4月 新入生対象の履修相談会において配布を行う予定。	○FD推進センター長の神田先生、FD推進支援室の職員の方々、そしてインタビューに応じてくださった先生、さらにFD推進委員会で本企画に賛同してくださった諸先生方のご協力を得られたこと。このことから、学生・教員・職員の三位一体を掲げる本団体の目的に即した企画となっている。 ○教員・職員の方々、学生という、色々な立場の方から意見をいただけたことで、幅広い観点から授業紹介冊子の作成を進めることができている。 ○先生方の顔写真や授業風景（一部を除く）の写真を掲載し、新入生が大学にはどのような先生方がいらっしゃり、どのような授業スタイルがあるのかを垣間見ることができ、新入生の履修登録に関する不安解消につながることが期待される。 ○掲載科目を基盤教育科目に限定しており、白山キャンパスの全学部の学生に偏りなく情報提供ができる。

2015年度、「先輩たちによるおもしろ授業紹介冊子WiLL」の作成にチーム一同全力で取り組んできました。WiLLは、特に履修に対して不安の多い新入生をサポートする一つの手段として、毎年春に実施している「履修相談会」にて配布予定です。WiLLを通して、新入生が先生と先輩からの声を参考に、より授業に関心を持って履修登録を行い、そして毎日の講義を有意義に過ごしてほしいと考えています。

学生FDチームにとって、今回のような冊子をFD推進センター公式で作成するのは初めての取り組みとなります。昨年度までは学生スタッフの独自の活動として授業紹介を行っていましたが、今年度は授業支援システム（ToyoNet-ACE）を活用し、学生からおすすめ授業に関する声を収集し、その声を元に教員へインタビューをするという流れで、大学公認の冊子の作成に至ることができました。

（経済学部・戸田裕貴）

↑質問項目を決めるにも四苦八苦

↑ページの校正には時間がかかりました

【作成に携わったスタッフより】

現在、「先輩たちによるおもしろ授業冊子WiLL」の発行に向けて活動しています。前期に白山キャンパスの学生を対象に「今まで履修してみた中で学問や授業の興味関心が高まった授業」についてアンケートを実施しました。そのアンケート結果をもとに学生FDチームが、授業の担当の先生方にインタビューをさせていただきました。さらには、おもしろい授業にはどのような共通点があるのかについてスタッフ内で話し合いをしました。 この冊子は、新入生が履修登録で困っている時の手助けとして活用していただければと考えています。私自身、このような冊子の作成に関わることができて、とても光栄でした。

私は、1年生なのですが、入学した当時に初めて履修を組む際、「どの授業を履修することが自分にとって良いのか？」がなかなか思いつきませんでした。 私のように履修に悩む新入生は少なくないと思います。そんな時に、実際に色々な授業を履修してきた先輩がおすすめする授業を知ることで、履修の視野が広がると思います。今回紹介できる授業は数あるおすすめ授業のうちのほんの一部ですが、このような活動を通じて、入学してきた学生が、「東洋大学に入学してよかった」と思えることが増えれば嬉しいです。

（国際地域学部・柊平健貴）